

I 調 査

1. 位置・沿革

本市は、岐阜県の南南東、東経 137 度 8 分、北緯 35 度 20 分に位置し、名古屋市から北東に 36km、鉄道は J R 中央本線、太多線、道路は国道 19 号、248 号、さらに中央自動車道が東西に走る東濃地方の交通拠点である。東濃地方の産業、経済、文化の中心地であるとともに中部経済圏の一翼を担う重要な位置にある。

大和朝廷が成立してから、尾張との交通が比較的容易であったところからその勢力圏内に含まれ開拓が進み、奈良、平安時代より陶器産国として知られ、釉薬・焼成・技法の上にも一大進歩を遂げ、日本陶業の中心地となった。

美濃は醍醐天皇の延喜式には陶器調貢の国と定められているが、鎌倉時代からは美濃源氏土岐氏の所領として知られ、南北時代の忠臣多治見国長公は太平記にも有名である。

桃山茶陶時代を経て徳川時代からは、陶磁器産業としての発展がめざましく、独自の陶都が形成されてきた。

明治 22 年に町制施行、昭和 15 年に市制を施行、その後隣接町村を合併して、昭和 35 年に旧多治見市の市域となった。その後、平成 18 年 1 月に旧笠原町と合併し、現在の市域となった。

行政区域の面積とその内訳を表-2に示す。

表-2 行政区域の面積とその内訳

(単位：km²)

項目	旧多治見市	旧笠原町	計
行政区域	77.80	13.45	91.25

資料：統計たじみ（2022 年版）



図-3 多治見市の位置

2. 地形・気象

市街地の中心部を土岐川が東から西に流れており、その南北に盆地が広がっている。周囲は北部と東部はなだらかな丘陵地帯で、西部と南部はやや陰しい丘陵地となっている。（図-4参照）

本市は地理的に海洋性気候の影響を受けており、近年の平均気温は 15℃程度であり、温和な気候である。冬期は総じて温かく、降雪をみることはまれである。年間の降水量は約 1,600～2,000 mm である。

気象概況を表-3に示す。

表-3 気象概況

年 月	気 温 (℃)			平均 湿度 (%)	平均 風速 (m/s)	降水量 (mm)	
	平 均	最 高	最 低			総雨量	日最大
令和3年	15.8	39.3	△ 7.4	71.8	1.6	2,010.5	159.0
1月	3.5	16.4	△ 7.4	72.9	1.6	60.5	19.0
2	6.1	20.8	△ 4.4	60.4	2.0	40.0	24.5
3	11.0	25.2	△ 0.5	65.5	1.9	166.5	38.0
4	14.0	28.6	0.7	61.6	1.9	167.0	70.0
5	18.5	31.2	4.3	71.2	1.7	246.5	83.5
6	22.8	33.7	14.0	73.6	1.4	158.5	59.0
7	26.7	36.3	19.4	78.0	1.3	265.0	42.0
8	27.2	39.3	20.6	77.8	1.6	412.5	159.0
9	23.4	32.5	16.4	80.7	1.1	251.5	39.5
10	18.5	31.8	5.3	72.1	1.6	77.0	34.5
11	10.9	25.2	△ 1.5	72.3	1.4	72.5	45.0
12	6.0	17.8	△ 2.5	73.7	1.7	93.0	27.0
令和4年	15.6	39.3	△ 6.1	72.2	1.6	1,693.5	103.0
1月	2.2	14.9	△ 6.1	67.0	1.8	28.5	16.0
2	2.9	14.4	△ 5.3	67.2	1.9	42.5	14.5
3	9.6	22.5	△ 3.0	62.2	1.9	83.0	28.0
4	16.0	29.7	0.5	66.6	1.8	124.0	29.5
5	18.5	34.1	4.9	65.8	1.6	105.0	30.5
6	23.6	38.9	10.6	73.1	1.5	89.0	28.0
7	26.8	39.3	19.7	79.5	1.3	460.0	103.0
8	27.5	37.9	19.4	80.8	1.3	336.0	59.5
9	25.4	35.1	16.5	79.0	1.5	238.0	99.5
10	17.0	31.0	3.6	73.7	1.3	65.5	23.5
11	12.7	24.5	2.2	76.9	1.4	91.0	27.5
12	4.6	17.3	△ 5.1	74.4	1.6	31.0	9.5

※観測地点は南消防署

資料：統計たじみ（2022年版）

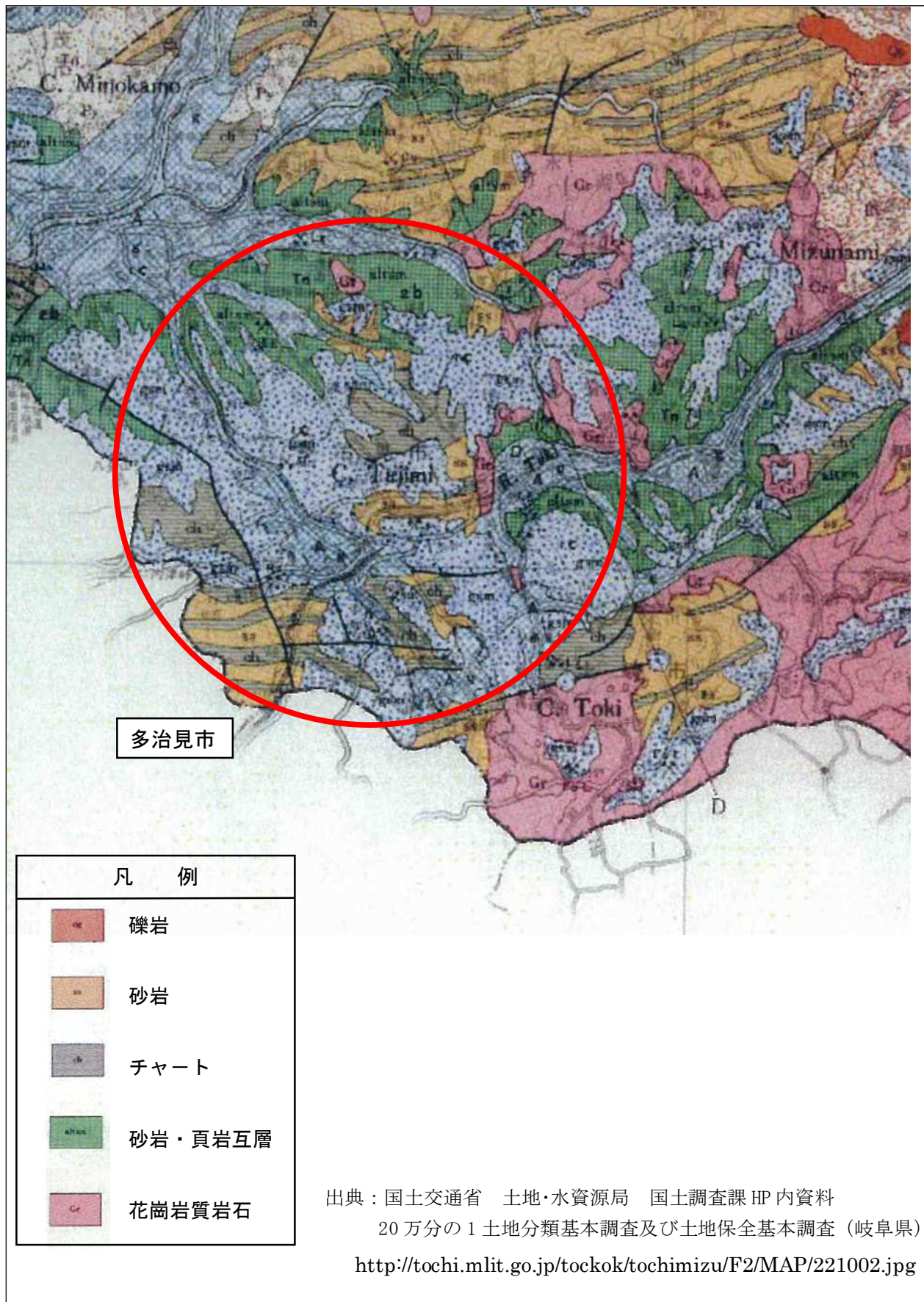


図-4 多治見市全図

3. 人 口

(1) 人口及び世帯数の推移

本市の人口は、陶磁器産業の発達とともに増加し、特に昭和 30 年代後半には県外からの若年労働者の流入などによってめざましく増加した。しかし、昭和 40 年代に入ると大幅な社会増加はなく、自然増を主とした増加で推移してきたが、昭和 50 年代になると丘陵地の宅地開発が進み、再び社会増加が顕著となった。昭和 60 年代に入ってもこの傾向は変わらず、平成 12 年頃まで人口増加が顕著であったが、その後は、横ばい・微減傾向が続いている。

平成 18 年には、旧多治見市と旧笠原町が合併した。

一方、世帯数については、現在も増加傾向が続いている。

なお、令和 6 年現在の人口及び世帯数は、105,713 人及び 47,993 世帯であり、世帯人員は 2.20 人/世帯である。（表-4 参照）

表-4 人口実績（住民基本台帳人口）

（各年 4 月 1 日現在）

項 目	元 号	世帯数 (世帯)	人 口 (人口)	世帯人員 (人/世帯)	備 考
1970	昭和45	15,644	63,320	4.05	
1975	50	19,235	68,499	3.56	
1980	55	20,875	73,907	3.54	
1985	60	24,225	84,758	3.50	
1990	平成 2	27,808	94,374	3.39	
1995	7	31,670	102,810	3.25	
2000	12	34,558	106,086	3.07	
2005	17	36,855	106,045	2.88	
2006	18	41,289	117,398	2.84	合併
2010	22	43,453	116,835	2.69	
2015	27	45,104	113,718	2.52	
2016	28	45,435	112,891	2.48	
2017	29	45,824	112,145	2.45	
2018	30	46,227	111,292	2.41	
2019	31	46,582	110,598	2.37	
2020	令和2	47,030	109,816	2.34	
2021	3	47,338	108,931	2.30	
2022	4	47,164	107,443	2.28	
2023	5	47,673	106,740	2.24	
2024	6	47,993	105,713	2.20	

注）平成 18 年旧多治見市と旧笠原町が合併

資料：多治見市の人口と世帯（2024 年版）

図-5 は、昭和 45 年から令和 6 年までの行政人口の推移を示しており、平成 12 年頃まで人口増加が顕著であったが、その後は横ばい～微減傾向が続いている。

なお、平成 18 年には、市町合併に伴い行政人口が増加している。

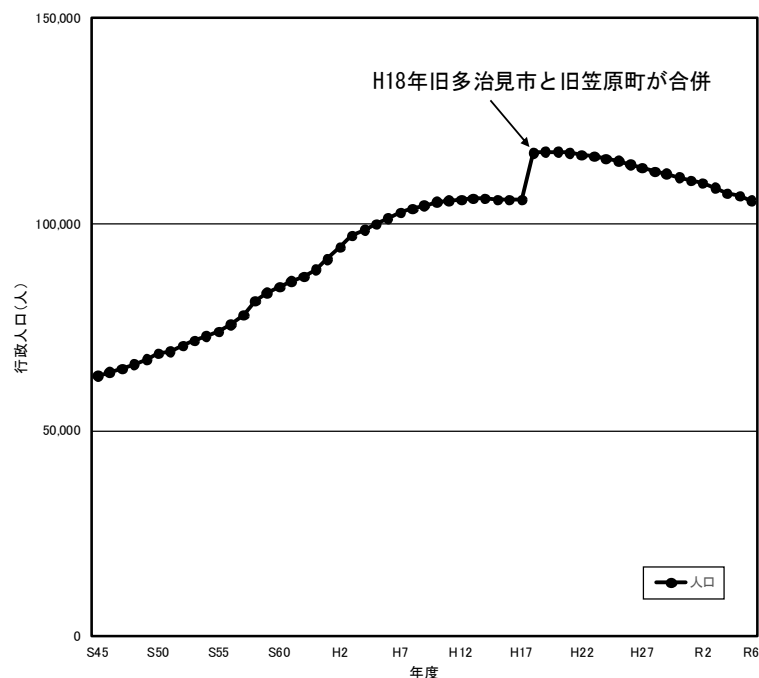


図-5 人口の推移

図-6 は、昭和 45 年から令和 6 年までの世帯数の推移を示しており、昭和 45 年以降、世帯数は増加傾向にあるといえる。

なお、平成 18 年には、市町合併に伴い世帯数が急激に増加している。

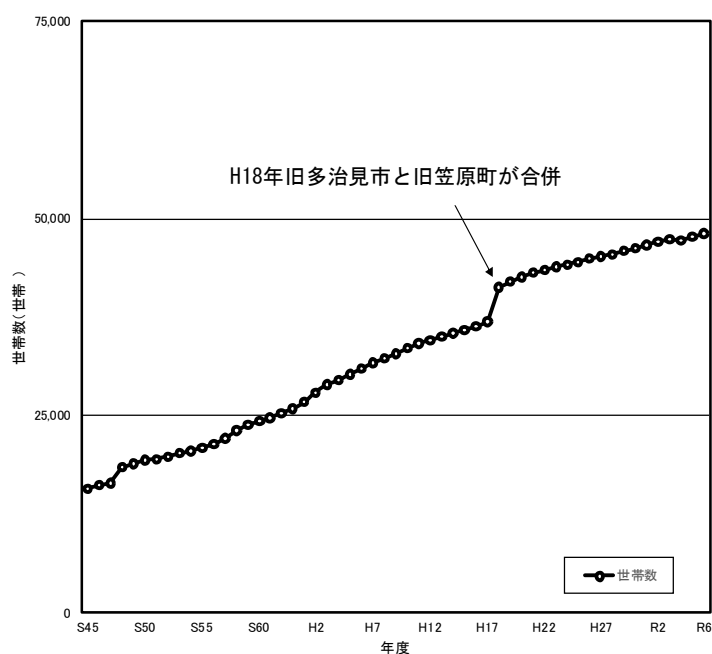


図-6 世帯数の推移

(2) 人口動態

自然増および社会増と行政人口に対するこれらの率を表-5及び表-6に示す。

表-5 自然増および社会増の推移

(単位：人)

年 度	出 生	死 亡	自然増	転 入	転 出	社会増減	増減計
昭和 45	1,283	389	894	3,741	3,840	△ 99	795
50	1,094	377	717	3,244	3,263	△ 19	698
55	973	375	598	4,038	2,804	1,234	1,832
60	996	465	531	3,975	3,222	753	1,284
平成 2	1,025	520	505	6,039	3,657	2,382	2,887
7	996	588	408	4,760	4,365	395	803
12	893	597	296	3,935	4,182	△ 247	49
17	801	819	△ 18	3,884	3,942	△ 58	△ 76
22	836	984	△ 148	3,412	3,774	△ 362	△ 510
27	741	1,092	△ 351	3,447	3,923	△ 476	△ 827
28	738	1,059	△ 321	3,362	3,787	△ 425	△ 746
29	683	1,188	△ 505	3,310	3,658	△ 348	△ 853
30	681	1,172	△ 491	3,618	3,821	△ 203	△ 694
31	618	1,232	△ 614	3,736	3,904	△ 168	△ 782
令和 2	636	1,214	△ 578	3,150	3,457	△ 307	△ 885
3	621	1,283	△ 662	2,764	3,590	△ 826	△ 1,488
4	538	1,384	△ 846	3,754	3,611	143	△ 703
5	473	1,408	△ 935	3,508	3,600	△ 92	△ 1,027

資料：多治見市の人口と世帯（2024年版）

表-6 行政人口に対する自然増、社会増の率

年 度	出生率	死亡率	自然増加率	転入率	転出率	社会増加率
昭和 45	2.03%	0.61%	1.41%	5.91%	6.06%	-0.16%
50	1.60%	0.55%	1.05%	4.74%	4.76%	-0.03%
55	1.32%	0.51%	0.81%	5.46%	3.79%	1.67%
60	1.18%	0.55%	0.63%	4.69%	3.80%	0.89%
平成 2	1.09%	0.55%	0.54%	6.40%	3.88%	2.52%
7	0.97%	0.57%	0.40%	4.63%	4.25%	0.38%
12	0.84%	0.56%	0.28%	3.71%	3.94%	-0.23%
17	0.76%	0.77%	-0.02%	3.66%	3.72%	-0.05%
22	0.72%	0.84%	-0.13%	2.92%	3.23%	-0.31%
27	0.65%	0.96%	-0.31%	3.03%	3.45%	-0.42%
28	0.65%	0.94%	-0.28%	2.98%	3.35%	-0.38%
29	0.61%	1.06%	-0.45%	2.95%	3.26%	-0.31%
30	0.61%	1.05%	-0.44%	3.25%	3.43%	-0.18%
31	0.56%	1.11%	-0.56%	3.38%	3.53%	-0.15%
令和 2	0.58%	1.11%	-0.53%	2.87%	3.15%	-0.28%
3	0.57%	1.18%	-0.61%	2.54%	3.30%	-0.76%
4	0.50%	1.29%	-0.79%	3.49%	3.36%	0.13%
5	0.44%	1.32%	-0.88%	3.29%	3.37%	-0.09%

1) 自然増の推移

自然増の推移及び行政人口に対する率（出生率・死亡率・自然増加率）の推移を図-7、図-8に示す。

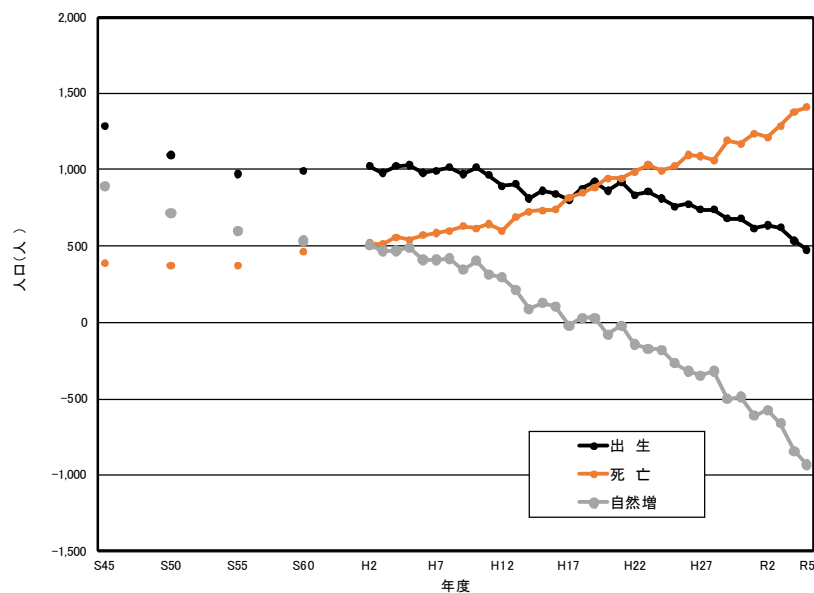


図-7 自然増の推移

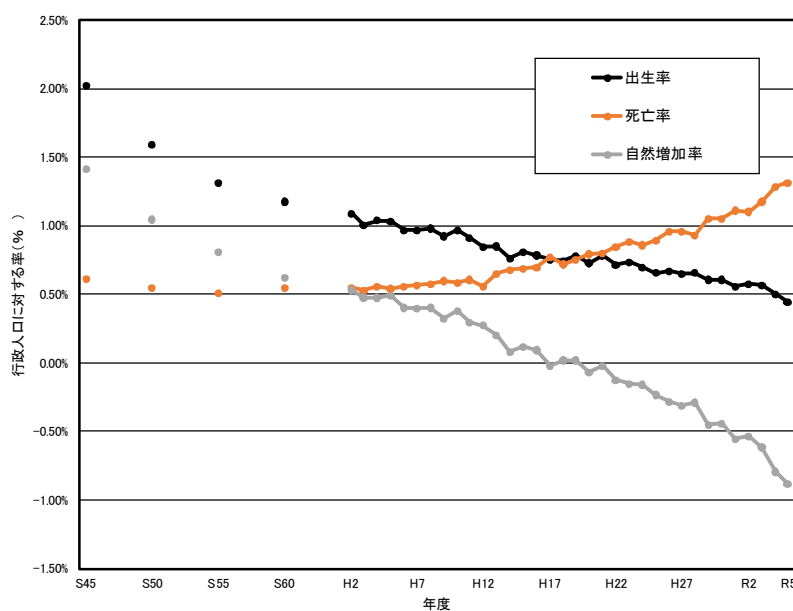


図-8 行政人口に対する率（出生率・死亡率・自然増加率）の推移

- ・ 出生者数は、減少傾向にある。
- ・ 死亡者数は、増加傾向にある。
- ・ 自然増は、マイナスとなっている。
- ・ 出生率・死亡率・自然増加率の推移は、出生者数・死亡者数・自然増加数と同様である。

2) 社会増の推移

社会増の推移及び行政人口に対する社会増加率の推移を図-9、図-10に示す。

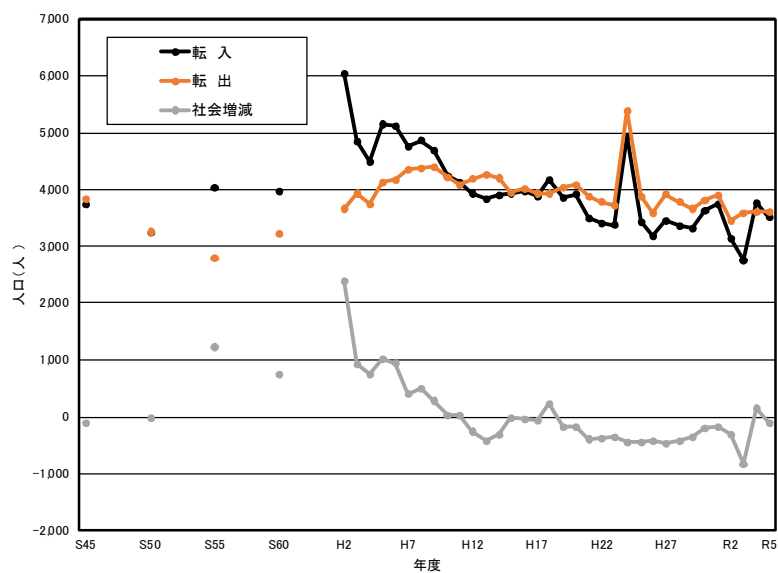


図-9 社会増の推移

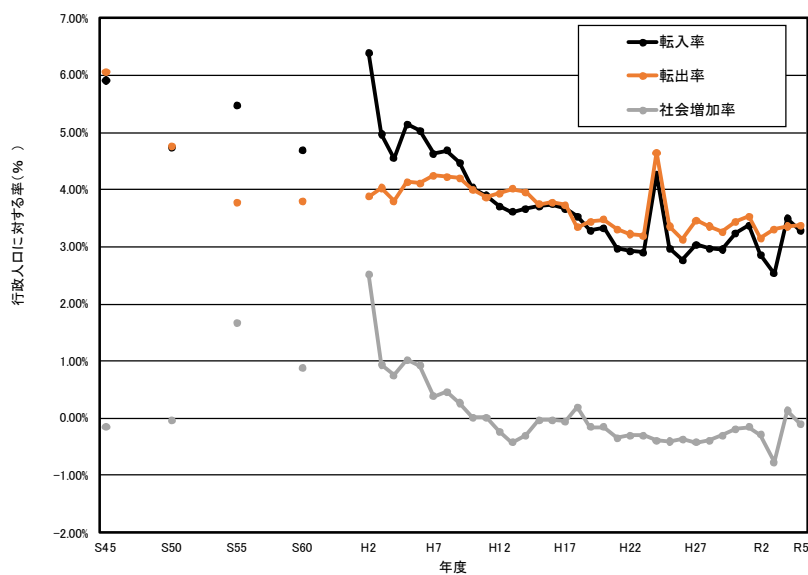


図-10 行政人口に対する率（転入率・転出率・社会増加率）の推移

- ・ 転入・転出に関しては、近年減少傾向にある。
- ・ 社会増は、近年転出超過が続いている。
- ・ 転入率・転出率・社会増加率の推移は、転入・転出・社会増と同様である。

(3) 5歳階級別人口

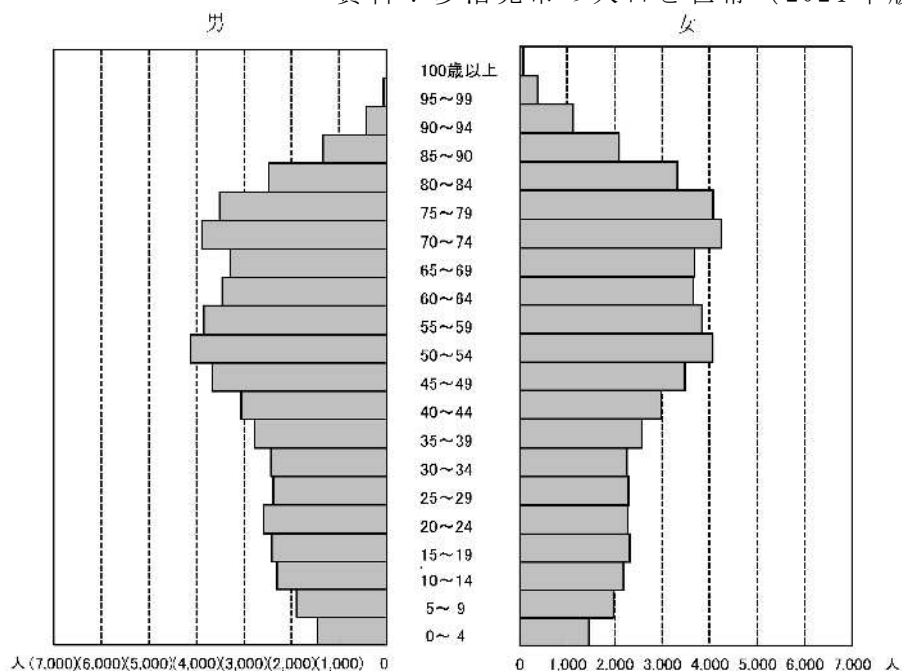
令和6年4月1日の男女5歳階級別人口を表-7に示す。
また、このときの人口ピラミッドを図-11に示す。

表-7 5歳階級別人口

(単位：人)

年 齢	総 数	男	女
0 ～ 4 歳	2,912	1,460	1,452
5 ～ 9 歳	3,865	1,892	1,973
10 ～ 14 歳	4,502	2,314	2,188
15 ～ 19 歳	4,734	2,415	2,319
20 ～ 24 歳	4,861	2,593	2,268
25 ～ 29 歳	4,670	2,379	2,291
30 ～ 34 歳	4,681	2,432	2,249
35 ～ 39 歳	5,344	2,772	2,572
40 ～ 44 歳	6,025	3,054	2,971
45 ～ 49 歳	7,153	3,675	3,478
50 ～ 54 歳	8,196	4,128	4,068
55 ～ 59 歳	7,679	3,847	3,832
60 ～ 64 歳	7,117	3,458	3,659
65 ～ 69 歳	6,966	3,291	3,675
70 ～ 74 歳	8,128	3,881	4,247
75 ～ 79 歳	7,587	3,512	4,075
80 ～ 84 歳	5,798	2,476	3,322
85 ～ 89 歳	3,426	1,339	2,087
90 ～ 94 歳	1,556	433	1,123
95 ～ 99 歳	443	65	378
100 歳 以 上	70	5	65
合 計	105,713	51,421	54,292

資料：多治見市の人口と世帯（2024年版）



資料：多治見市の人口と世帯（2024年版）

図-11 5歳階級別人口ピラミッド

4. 産 業

本市の産業構造は、第 2 次、第 3 次産業の割合が高く、陶磁器産業を中心としたものになっている。

第 1 次産業では、昭和 40 年以降の都市化の進行によって田畑の減少が著しく、近年における農林業の産業としての地位は低くなっている。

第 2 次産業は、基幹産業である陶磁器産業の構造的な性格から零細な事業所が多く、労働生産性も県平均より低くなっている。陶磁器産業は、製造業、卸売業ともに横這いしないし、減少傾向を示しているが、依然として基幹産業としての地位にある。

一方、小売業、サービス業の第 3 次産業は、近隣市町の 20 万人商圏を背景にして商業機能を高めているが、名古屋圏に近いこともあり、多くの消費者の流出がみられる。

（１） 出荷額の推移

本市における昭和 60 年～令和 4 年までの出荷額を表-8に示す。

経年の変化をみると、平成 2 年に 1,900 億円に達したが、その後、減少に転じ平成 21 年にはピーク時の約半分となる 1,010 億円程度まで減少し、それ以降 1,300 億円程度まで回復している。（図-12参照）

表-8 多治見市工業出荷額

項 目	元号	出荷額（百万円）			備考
		旧多治見市	旧笠原町	計	
1985	昭和60	106,454	44,895	151,349	
1990	平成 2	126,258	63,792	190,050	
1995	7	101,878	56,813	158,691	
2000	12	76,905	41,761	118,666	
2005	17	70,558	35,261	105,820	
2006	18	-	-	105,177	合併
2007	19	-	-	128,829	
2008	20	-	-	119,404	
2009	21	-	-	101,012	
2010	22	-	-	104,538	
2011	23	-	-	-	
2012	24	-	-	111,329	
2013	25	-	-	112,331	
2014	26	-	-	116,605	
2015	27	-	-	-	
2016	28	-	-	-	
2017	29	-	-	124,443	
2018	30	-	-	129,313	
2019	令和 元	-	-	132,975	
2020	2	-	-	135,659	
2022	4	-	-	130,769	

資料：多治見の工業（工業統計）・岐阜県統計書(令和 5 年版)

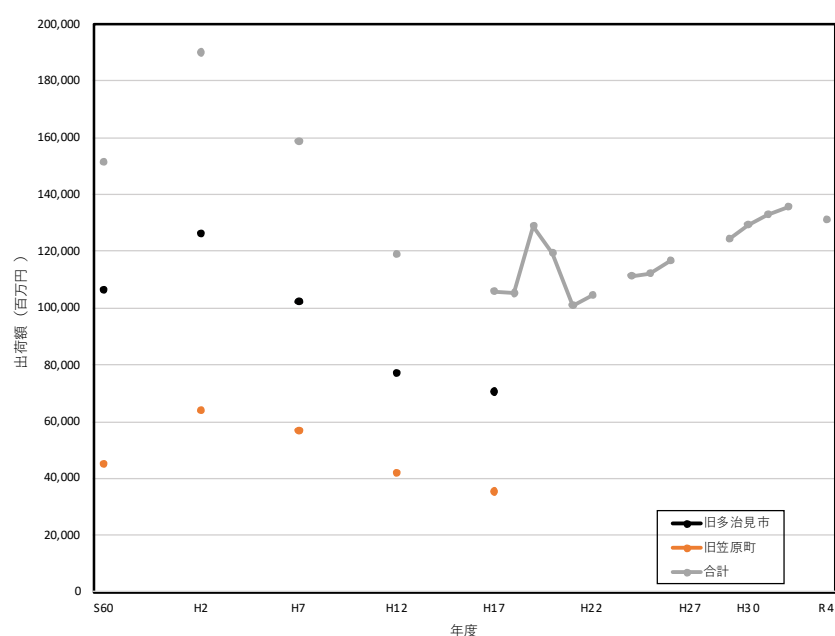


図-12 工業出荷額の推移

(2) 工場排水量

下水道計画区域内に立地し、下水道への接続が見込まれる（一部は既に接続済み）工場のうち、大規模工場である排水量が 50m³/日以上 の事業所数とその合計排水量を表-9に示す。

表-9 事業所数と工場排水量

年度	事業所数 (接続見込みも含む)	排水量 (m ³ /日)
H26	10 件	2,480

注)調査年度 H26(2014)年度

5. 土地利用

本市域の土地利用状況を表-10に示す。

都市的土地利用の面積は 3,870ha で市全体の 42.4%を占めている。また、山林面積は 4,467ha で 49.0%と半分を占め、田畑等の耕作地については、292ha で 3.2%とわずかである。

表-10 地目別面積

(単位：ha)

用途区分		行政区域	構成比	用途区分		行政区域	構成比
都市的土地利用	住宅用地	1,268.3	13.9%	自然土地利用	田	135.9	1.5%
	商業用地	241.2	2.6%		畑	155.6	1.7%
	工業用地	267.2	2.9%		山林	4,466.8	49.0%
	農林漁業施設用地	7.3	0.1%		水面	140.4	1.5%
	公益施設用地	270.4	3.0%		その他自然地	356.1	3.9%
	道路用地	752.4	8.2%		計	5,254.8	57.6%
	交通施設用地	74.3	0.8%				
	公共空地	205.7	2.3%				
	その他の空地	783.4	8.6%				
	計	3,870.2	42.4%		総合計	9,125.0	100.0%

資料：統計たじみ（2022年版）

6. 都市計画

平成 18 年の市町合併に伴い、多治見都市計画と笠原都市計画が平成 22 年 12 月に統合された。

現在の都市計画用途地域別面積を表-11に示す。

また、図-13に都市計画総括図を示す。

表-11 都市計画用途地域別面積

区 分	面 積 (ha)	比 率 (%)
第 1 種低層住居専用地域	645	20.4
第 2 種低層住居専用地域	102	3.2
第 1 種中高層住居専用地域	170	5.4
第 1 種 住 居 地 域	881	27.8
第 2 種 住 居 地 域	19	0.6
準 住 居 地 域	14	0.4
近 隣 商 業 地 域	42	1.3
商 業 地 域	148	4.7
準 工 業 地 域	999	31.5
工 業 地 域	123	3.9
工 業 専 用 地 域	26	0.8
計	3,169	100.0

(令和 4 年 3 月現在)

多治見都市計画総括図

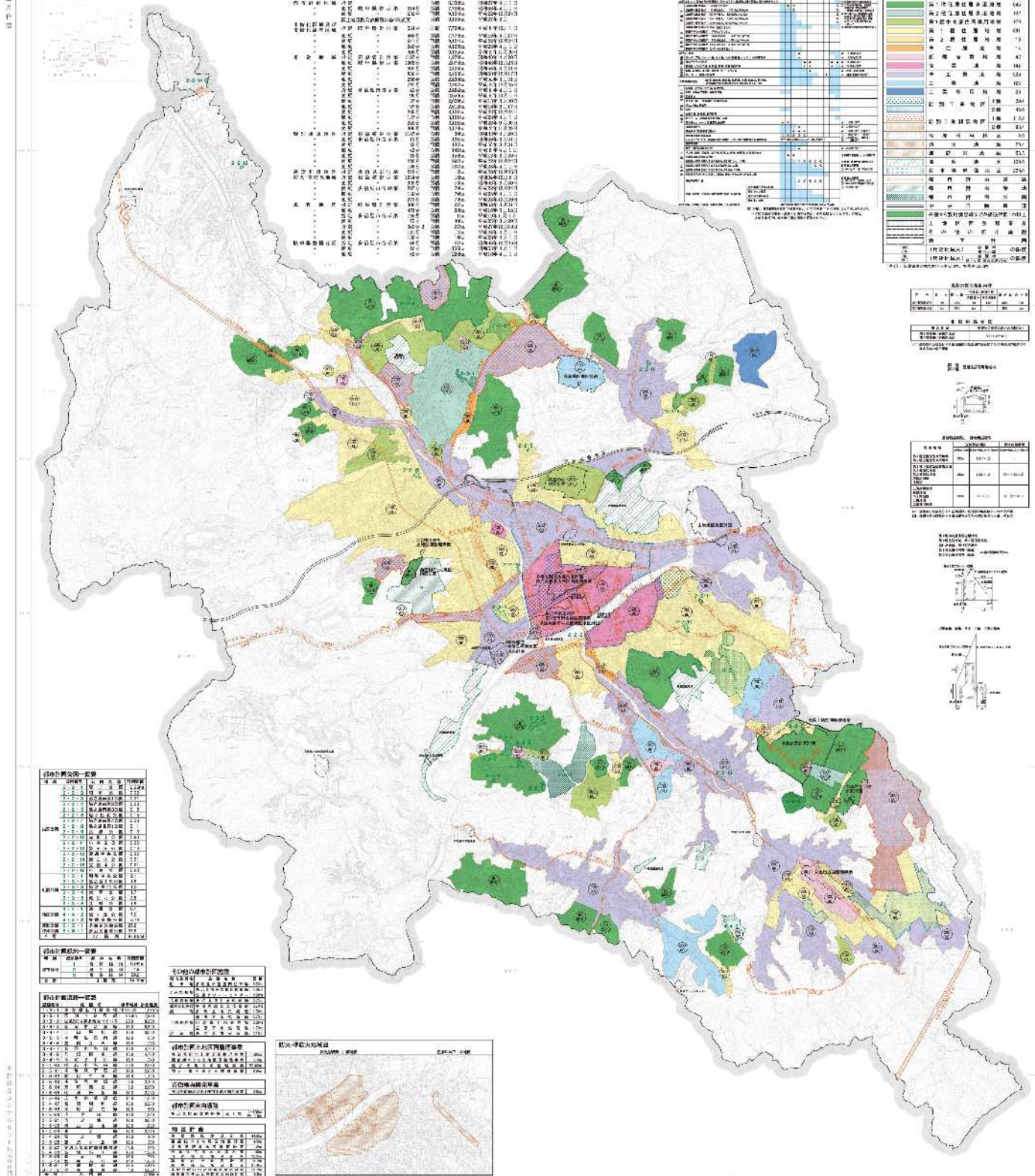


図-13 都市計画総括図

7. 道路・交通

本市には、東西に J R 中央本線、南北に J R 太多線が通っており、両路線で合計 5 駅が市内に位置している。

本市の表玄関である多治見駅をはじめ、各駅における乗降客数は減少傾向にある。

なお、令和 3 年度における多治見駅の年間乗降客数は約 369 万人であり、5 駅の合計は 470 万人であった。（表-12 参照）

表-12 鉄道の利用状況（J R 東海 駅乗降客数）

（単位：千人/年）

項 目	元号	多治見駅	古虎溪駅	小泉駅	根本駅	姫駅	合計
2017	平成29	5,010	171	491	456	155	6,282
2018	30	4,968	145	490	464	164	6,232
2019	令和元	4,855	141	479	460	167	6,102
2020	2	3,644	115	397	365	125	4,646
2021	3	3,690	109	413	363	128	4,704

資料：統計たじみ（2022 年版）

道路については、広域交通に対応する路線として、中央自動車道、国道 19 号の 2 路線が並行して東西に走り、都市幹線道路として国道 248 号が南北に走っている。

また、県道・都市計画道路が中心市街地から放射状に整備されていることに加えて、国道 248 号が中心市街地を經由しているため、交通が錯綜している。また、自動車交通の流れは東西方向の交通量が多く、大部分が通過交通となっている。

一方、市内の公共交通機関はバスが主であり、バス路線のほとんどは多治見駅と周辺団地を結んでいる。

表-13 道路の状況

（R4.4.1現在）

項 目	道路延長 (m)	橋梁延長 (m)	トンネル延長 (m)	舗装道延長 (m)	未舗装道延長 (m)	舗装率 (%)	路線数 (本)
高速道路	10,850	983	662	10,850	—	100.0	1
国道 19号	7,808	715	372	7,808	—	100.0	1
国道248号	14,077	932	469	14,077	—	100.0	1
県道	59,790	765	148	58,981	809	98.6	14
市道	663,643	3,573	27	584,624 (644,340)	79,018	88.1	2,628

資料：道路河川課、多治見土木事務所、多治見砂防国道事務所、中日本高速道路株式会社

注：（ ）内は、軽舗装を含めた数字

*路線数については軽舗装を含めた数字のみ表示

資料：統計たじみ（2022 年版）

8. 河川・水路

本市を東西に流れる土岐川は、恵那市山岡町の夕立山を水源として、瑞浪市、土岐市を経ながら、多くの支川を集め本市に至り、名古屋市を経て伊勢湾に注いでいる。

また、市内には市之倉川、笠原川、生田川、辛沢川、大原川及び高田川等の河川が流れており、それらの河川のほとんどが土岐川に合流し、北部を除き市全体が一つの流域を形成している。

市北部に流れる姫川は、木曽川へ注いでおり、同じく伊勢湾に至っている。この河川は、木曽川流域に属している。

9. 水道事業

本市の上水道は、昭和 51 年より水源を県営東濃用水道に全量依存している。昭和 61 年度に、将来にわたり安定した水源の確保を図るため、岐阜東部広域的水道整備計画が策定され、整備が進められてきた。

現在、普及率はほぼ 100%に達しており、令和 4 年度末における本市の有収水量（生活用及び営業用）はそれぞれ、9,129 千 m³/年、1,597 千 m³/年である。また、原単位はそれぞれ 241L/人/日、42L/人/日（営業用水率 17%）である。（表-14参照）

表-14 上水道給水人口及び給水量

項 目	元 号	給水人口 (人)	有収水量（千m ³ /年）				原単位（L/人/日）			営業用 水率
			生活用	営業用	工業用	計	生活汚水	営業汚水	計	
1985	昭和60	97,491	6,886	1,891	523	9,300	194	53	247	27%
1990	平成 2	106,960	8,109	2,245	672	11,026	208	58	266	28%
1995	7	113,571	8,763	2,489	604	11,856	211	60	271	28%
2000	12	115,497	9,884	2,460	546	12,890	234	58	292	25%
2005	17	114,797	9,708	2,156	543	12,407	232	51	283	22%
2006	18	114,707	9,713	2,117	536	12,366	232	51	283	22%
2007	19	114,538	9,732	2,072	520	12,324	233	50	283	21%
2008	20	114,277	9,624	2,032	538	12,194	231	49	280	21%
2009	21	113,899	9,629	1,994	452	12,075	232	48	280	21%
2010	22	112,276	9,641	1,987	519	12,147	235	48	283	20%
2011	23	111,687	9,561	1,972	551	12,084	235	48	283	20%
2012	24	111,191	9,497	1,963	529	11,989	234	48	282	21%
2013	25	110,651	-	-	-	11,915	-	-	-	-
2014	26	109,880	-	-	-	11,781	-	-	-	-
2015	27	109,944	-	-	-	11,752	-	-	-	-
2016	28	109,215	9,286	1,833	510	11,629	233	46	279	20%
2017	29	108,306	9,287	1,827	528	11,642	235	46	281	20%
2018	30	107,617	8,518	1,685	462	10,665	217	43	260	20%
2019	令和元	106,844	9,195	1,784	517	11,496	236	46	282	19%
2020	2	106,081	9,524	1,648	532	11,704	246	43	289	17%
2021	3	104,555	9,331	1,639	541	11,511	245	43	287	18%
2022	4	103,806	9,129	1,597	534	11,260	241	42	283	17%

資料：岐阜県の水道の概況（令和 4 年度版）

10. し尿処理状況

本市のし尿処理は月見センター(平成2年3月運転開始)にて行われており、施設概要及びし尿処理状況は以下のとおりである。

(施設概要)

位 置	多治見市月見町 3 丁目 73-2
敷地面積	7,681.24 m ²
処理能力	61kL/日(生し尿：40kL/日＋浄化槽汚泥 21kL/日)
処理対象人口	47,700 人
処理方法	標準脱窒素処理方式(低希釈法)

表-15 し尿処理の状況

項 目		平成27年度	28	29	30	令和元年度	2	3
くみ取り人口(百人)		33	32	29	27	26	24	22
浄化槽人口(百人)		122	118	113	108	92	90	87
処理水量	生し尿	2,893	2,754	2,634	2,467	2,291	2,192	2,131
(kL)	浄化槽汚泥	6,824	6,809	6,945	6,595	6,332	6,292	6,076
	計	9,717	9,563	9,579	9,062	8,623	8,484	8,207

資料：統計たじみ(2022年版)

11. 下水道の現況

本市の下水道の整備は、下水道事業計画に基づき進めている。

平成 18 年 1 月に旧多治見市と旧笠原町が合併した結果、多治見市の下水道事業計画区域の面積は約 2,951ha となっている。

市街地の下水道整備は概ね完了しており、現在は周辺部の管渠整備を進めている。令和 5 年度末の下水道整備済み区域の面積は約 2,573ha であり、下水道普及人口は約 101,500 人となっている。

また、下水処理場として、池田下水処理場（3.73ha）及び市之倉下水処理場（0.67ha）、笠原下水処理場の 3 処理場が稼働中である。

下水道の普及状況を表-16に示す。

表-16 下水道の普及状況

年度	行政人口 (人) A	整備区域内 人口 (人) B	水洗化 人口 (人) C	整備面積 (ha)	下水道 普及率 B/A	水洗化率 C/B
昭和 52	71,593	8,369	3,139	114.5	11.7%	37.5%
55	75,672	15,100	9,863	200.2	20.0%	65.3%
60	86,085	29,587	20,963	519.5	34.4%	70.9%
平成 2	97,300	47,338	36,416	975.4	48.7%	76.9%
7	103,654	59,448	49,664	1,356.2	57.4%	83.5%
17	117,398	87,367	78,442	2,098.6	74.4%	89.8%
18	117,654	97,724	88,643	2,232.4	83.1%	90.7%
19	117,508	103,191	93,389	2,314.6	87.8%	90.5%
20	117,246	105,126	95,727	2,336.3	89.7%	91.1%
21	116,835	106,304	97,141	2,375.4	91.0%	91.4%
22	116,325	106,468	97,716	2,387.4	91.5%	91.8%
23	115,802	106,675	97,992	2,404.2	92.1%	91.9%
24	115,178	105,955	97,645	2,411.1	92.0%	92.2%
25	114,457	105,879	97,536	2,423.2	92.5%	92.1%
26	113,718	105,831	97,304	2,442.0	93.1%	91.9%
27	112,891	105,422	97,258	2,450.9	93.4%	92.3%
28	112,145	105,723	97,049	2,471.4	94.3%	91.8%
29	111,292	105,595	96,960	2,489.1	94.9%	91.8%
30	110,598	105,095	96,916	2,531.4	95.0%	92.2%
令和 元	109,816	104,746	97,882	2,534.1	95.4%	93.4%
2	108,931	104,055	97,488	2,542.4	95.5%	93.7%
3	107,443	102,806	96,440	2,551.2	95.7%	93.8%
4	106,740	102,369	96,184	2,572.5	95.9%	94.0%
5	105,713	101,543	95,635	2,572.5	96.1%	94.2%

※各年年度末における普及状況

資料：多治見市水道部